

3.5. アカデミック・コンピテンス Can-do リスト 2021

3.5.1. 目的と定義

「アカデミック・コンピテンス Can-do リスト 2021」の作成目的は、山梨学院大学（以下 YGU）入学から卒業までに修得が求められる日本語力の一端を明らかにし、グローバルラーニングセンター（以下 GLC）による日本語プログラムで体系的に指導できるよう、その指針を示すことである。ここで扱うアカデミック・コンピテンスが何かを説明する前に、アカデミック・ジャパニーズの概念について触れておく。アカデミック・ジャパニーズという言葉は、日本留学試験で測定すべき日本語力を説明する中で用いられ、その後「大学での学修に必要な日本語」といった意味で日本語教育にも広く普及した。しかし、門倉（2006）などの論考にあるように、アカデミック・ジャパニーズは教養教育や市民教育など言語の修得のみを範疇とする狭義的な意味を超えた内容を含むものである。実践報告のためにアカデミック・ジャパニーズの議論全体をレビューした鈴木他（2010）は、留学生に求められるアカデミック・ジャパニーズを以下のようにまとめている。

- 1) 大学での学修に必要な日本語の言語要素や技能
- 2) 比較・例示・問題発見・分析・問題解決など、大学教育で求められる思考力

レポート作成の例を考えてみると、文を作成するために文法や専門用語などの言語知識が不可欠だが、研究テーマ・問いを切り出し、結論に至る過程で主張を根拠とともに展開するための思考力が求められる。つまり、アカデミック・ジャパニーズの 1) と 2) はそれぞれ個別に切り離されたものではなく、統合的な運用がなされると言える。

こうしたアカデミック・ジャパニーズの広範的な定義を踏まえると、Can-do プロジェクトの「①授業活動別 Can-do リスト」(3.2.) は「話す」「聞く」という言語技能、「②GLC（日本語）基礎学修能力 Can-do リスト」(3.3.) は思考力育成が可能かを見極めるためのボトムラインとしての態度・姿勢、「③基礎技能系 Can-do リスト」(3.4.) はアカデミック・ジャパニーズの基礎となる言語力、もしくは窓口での手続きや授業外でのクラスメートとの簡単な会話など、カジュアルな場面で求められる「キャンパス・ジャパニーズ」（門倉 2003）を網羅すると捉えられる。一方、単位取得にかかるよりフォーマルな場面において文献講読やレポート作成が不可欠ことを考えると、「読む」「書く」に特化した Can-do リストも必要となる。文献講読では日本語の言語知識・運用力に加え、批判的に内容を吟味・分析する力といった思考力が求められる。レポート作成については上述した通りである。また、大学卒業後の進路として大学院進学を視野に入れた場合、かなり高度な思考力を含む「読む」「書く」力が要求される。そこで、言語四技能を広範囲に含むアカデミック・ジャパニーズと区別して、大学入学から卒業までに必要な「読む」「書く」力を細分化したものを「④アカデミック・コンピテンス Can-do リスト 2021」（以下、AC{Academic Competence} Can-do リスト）と名付けることとした。コンピテンス（Competence）は潜在的なものを含む能力という意味で、言語運用能力を示す際に言語教育学の分野で用いられる語である。ここでいう能力は「読む」「書く」力、それに付随して求められる思考力に限定する。

「AC Can-do リスト」で扱う力と GLC が提供する日本語科目の関係について、2.3.で示した図を再掲して示す（図1）。「AC Can-do リスト」は、「読む」「書く」力に関して新入留学生の A～C レベル（第2章参照）を全て網羅している点で、他の Can-do リストに比べ広範囲にわたる。また、大学院進学などアカデミックな進路を希望する学生の支援につながるよう、大学卒業時に修得していることが望ましい Can-do リストも範疇としており、他の Can-do リストよりも難易度の高いものを含む。

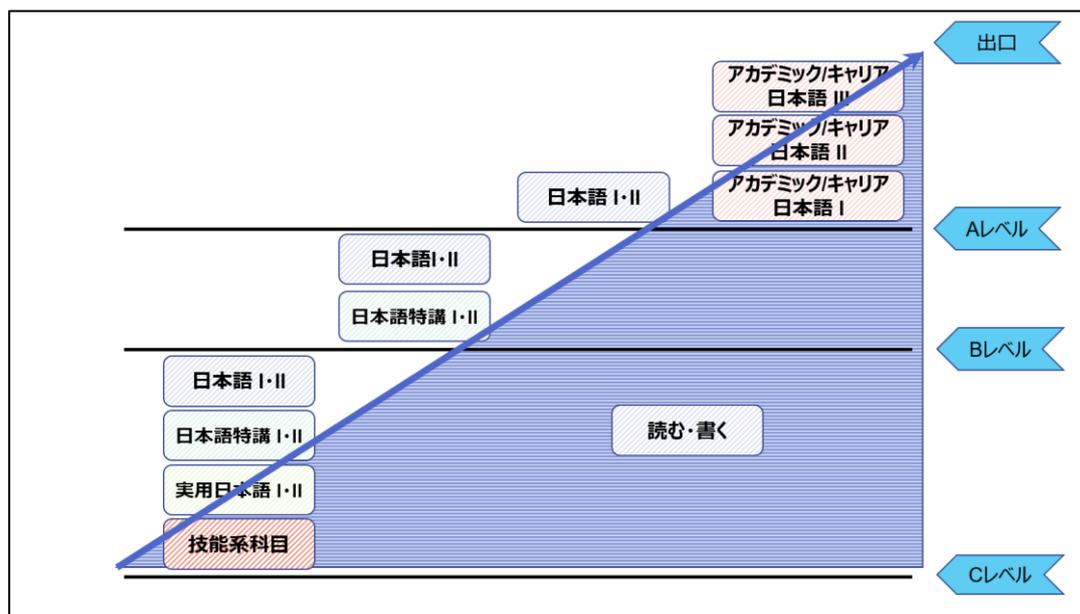


図1 レベル別日本語科目（2.3.で齊藤が作成した図を再掲）

3.5.2. 作成の経緯

「AC Can-do リスト」は、「基礎演習 I・II 履修留学生対象アンケート」、「日本語力 自己評価シート」、「日本語 I・II (A レベル) チェックリスト」（いずれも巻末資料参照）、アーティキュレーション整備¹の際作成された会議資料を概観し、「足りないもの」に着眼したことが作成の経緯にある。本プロジェクトのベースとなったこれらの材料を見渡してわかったのは、日本語の四技能のうち「読む」「書く」に関する記述が少ないことであった。その例として、GLC の日本語セクション（以下 GLC-J）で科目間のアーティキュレーションを考えるために作成した「Can-do リスト 2020 アカデミック日本語」を表1に示す。

表1で「読む」「書く」に関連するものは、1と4にある。1の「資料を正確かつ批判的に読むことができる。」はその一つだが、A レベルであっても「批判的に読む」ことは容易ではなく、それ以前に読み物の概要や筆者による主張の把握が困難な学生が多いというのが、「アカデミック日本語」を担当した報告者と金桂英特任講師の所感であった。批判的な読みは、内容理解の上で成り立つことである。このことは、表1に挙げた Can-do リストを扱う以前に、よりブレイクダウンした「読む」「書く」力の育成が必要なことを示唆している。A レベルの「アカデミック日本語」履修者がそうであるなら、B および C レベルの学生指導には、より段階的に積み上げるべき言語運用力を可視化しなければならない。

また、4の「研究計画書やレポートに必要なフォーマルな文章（文体、語彙、表現などの日本

語、構成などの内容) を書くことができる。」のように、タスクの遂行ができるという主旨のものが上述の資料には多く、例えばフォーマルな文章作成というタスクにおいて、どのような力が求められるのかが具体的に示されていないという課題が浮かび上がった。

表1の2および3にある目標設定・学習計画・学習実施など、PDCAサイクルを自ら循環させる力もアカデミック・ジャパニーズの習得上重要である。「②GLC(日本語)基礎学修能力 Can-do リスト」の上位レベルに位置するものとして、今後 Can-do リストに組み込むことも考えられよう。しかし、今回の Can-do プロジェクトの目的は、第一に日本語プログラムの洗練化にあることを考え、「AC Can-do リスト」では、他の Can-do リストで網羅されていない日本語の「読む」「書く」に特化することとした。

表1 科目別 Can-do リスト 2020「アカデミック日本語」の例 ※報告者と金桂英講師が作成

<p>1. アカデミック・スキルを身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 資料を正確かつ批判的に読むことができる。(読解力) <input type="checkbox"/> 資料を自分の経験や知識と関連付けながら理解・解釈することができる。(把握する力) <input type="checkbox"/> 研究テーマなど自分に必要な情報を収集することができる。(情報収集力) <input type="checkbox"/> 収集した情報を批判的に分析することができる。(分析力、リサーチ力) <input type="checkbox"/> 自分の理解・解釈を他者にわかるように説明できる。(表現力) <input type="checkbox"/> 他者の発言に対し、適切に質問・コメント・確認・同意表明・反対表明をすることができる。(ディスカッション力) <input type="checkbox"/> 他者とのやり取りの中で、適切な表現を用いながら考えを深め合うことができる。(関係調整・構築力、協調する力) <input type="checkbox"/> ディスカッションを基に、自分自身の考えと観点をまとめることができる。(統合力) <input type="checkbox"/> あるテーマをめぐる、他者とターンを繰り返す中で、テーマに関する理解・解釈を深めたり、結論を共同で出すことができる。(関係調整・構築力、協調する力、統合力) <input type="checkbox"/> まとめたものを適切な媒体を使って、他者に伝えることができる。(プレゼンテーション力) <p>2. 自分の学習を振り返り、改善のために目標を設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自分のこれまでの経験値や能力を把握することができる。(自己分析力) <input type="checkbox"/> 自分の将来の目的や展望を描くことができる。(目標設定力) <input type="checkbox"/> 現在の自分と理想の自分のギャップを分析し、現状から学習目標到達のために必要な能力をリスト化することができる。(自己分析力と目標設定力) <input type="checkbox"/> 自分の人生において大学院進学などのアカデミックなキャリアがどのような意味を持つかを認識することができる。(自己把握力) <input type="checkbox"/> 卒業論文の作成や大学院進学に必要な目標設定ができる。(目標設定力) <p>3. 目標を達成するための学習計画を立てて、実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 学習計画を立てることができる。(計画力) <input type="checkbox"/> 卒業論文の作成や大学院進学に必要な情報を収集し、適切な時期に必要な行動をとることができる。(計画力) <input type="checkbox"/> 計画を実施することができる。(自己管理力) <input type="checkbox"/> 計画実施プロセス及び到達度を評価することができる。(自己評価力) <input type="checkbox"/> 計画の実施を反省的に振り返り、改善策を考えることができる。(循環推進力) <p>4. 特定強化日本語能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 話し言葉を文脈や課題(ディスカッション、プレゼンテーションなど)に応じて適切に使い分けることができる。 <input type="checkbox"/> 書き言葉を文脈や課題(ノートテキング、レポート、研究計画書など)に応じて適切に使い分けることができる。 <input type="checkbox"/> ディスカッションやプレゼンテーションなどで求められる談話展開を意識し、やりとりが継続できる。 <input type="checkbox"/> 研究計画書やレポートに必要なフォーマルな文章(文体、語彙、表現などの日本語、構成などの内容)を書くことができる。

なお、「AC Can-do リスト」は、「基礎演習 I・II 履修留学生対象アンケート」、「日本語力自己評価シート」、表 1 の「科目別 Can-do リスト 2020 アカデミック日本語」などを参照したものの、そもそも「読む」「書く」の記述が多くないことから、報告者が担当した「日本語 I・II」および「アカデミック日本語」、経営学部必修科目「ライティング」（留学生専用；2020 年度のみ開講）での実践経験に基づき、報告者が原案を作成した。そして、本プロジェクトメンバーで議論を重ねた上で、最終版を完成させた。

3.5.3. Can-do リスト

「AC Can-do リスト」は項目を「読解」と「文・文章作成」に分け、それぞれ 3 段階の難易度ごとに区分した。難易度を示す段階と対象となる日本語レベルおよび科目を表 2 に示す。

表 2 「アカデミック・コンピテンス Can-do リスト 2021」の段階と対象となる日本語科目

段階	説明	対象となる日本語レベル・科目
I	大学入学までに修得していることが必須の技能	C レベルの日本語科目
II	大学入学後、早期に修得することが必要な技能	A・B レベルの日本語 I・II
III	卒業時に修得していることが望ましい技能	アカデミック日本語 I・II・III

日本語の最上位科目には「アカデミック日本語」と「キャリア日本語」があるが（図 1 参照）、3.4.2.の表 2 「科目別 Can-do リスト 2020 『キャリア日本語』の例」にあるように、「キャリア日本語」では、「読む」「書く」以上に高度な口頭表現力が求められることから、難易度が最も高い段階 III は「アカデミック日本語」での指導を想定して作成した。以下、「AC Can-do リスト」を示す。

アカデミック・コンピテンス Can-do リスト 2021

読解	
段階 I	
1	漢字を正しく読むことができる。
2	日常生活で使う基本的な語を読み、理解することができる。
3	チラシやお知らせなどで使われる簡単な指示文を理解することができる。
4	文の構造(動詞の活用、名詞修飾、複文、主述など)を把握しながら、読むことができる。
5	分からない言葉や文法を調べて、意味を理解しながら、文を理解できる。
6	大学からの情報(掲示板、メール、文書など)の書式・形式を理解し、必要な情報を読み取ることができる。
7	文と文のつながり(接続詞など)を理解しながら、読むことができる。
8	自分が母語で知っている内容であれば、知らない言葉があっても概要を把握することができる。
9	授業の制限時間内に短い文章を読み、概要を把握することができる。
10	視覚資料(絵、写真など)の助けを借りて、文章の概要を推測することができる。
段階 II	
11	文章の全てを読まずに、見出しや中心文など、理解できる文章のパーツから概要を推測することができる。
12	知らない言葉があっても、意味を推測しながら読み、最後まで読み進めることができる。
13	読み物のジャンル(新聞、雑誌、論文、図書、講義資料など)に応じて書式・形式を理解し、必要な情報を読み取ることができる。
14	文献を読み、概要を把握できる。
15	文献を読み、要点を抽出できる。
16	文献を読み、自分に必要な情報を選び取ることができる。
17	文章中の意見と事実を区別して理解できる。
18	専門分野で頻出する語彙や専門用語(カタカナ語含む)を理解できる。
19	図表を読んで理解し、自分の研究課題に応じてデータを解釈できる。
20	知らない内容の読み物を読み、読んだ後で新しい情報・知識を整理できる。

段階 III	
21	文献・資料と自分の知っていることを関連付けながら、読むことができる。
22	文献・資料と自分の考えを比較しながら、読むことができる。
23	文献・資料を読み、それに対する自分の理解や解釈について自問できる。
24	文献・資料を読み、明示されていない筆者の意図を読み取ることができる（行間を読む）。
25	文献・資料を読み、筆者の立場・主張を理解できる。
26	複数の文献・資料を読み、情報を関連付けて整理・分類できる。
27	複数の文献・資料を読み、賛否など異なる複数の立場・主張を把握・認識できる。
28	文献・資料を読み、その内容の不足点や矛盾などの欠陥に気づくことができる。
29	専門分野の論文・図書を読み、研究動向を把握できる。
30	専門分野の論文・図書を読み、研究動向から新たな研究課題を見出すことができる。

文・文章作成	
段階 I	
1	正しい文字（ひらがな、カタカナ、日本語の漢字）を使って書くことができる。
2	PC を用いて、日本語を入力・タイプすることができる。
3	（～て形、～た形など）動詞を適切に活用して、文が書ける。
4	語と語を助詞で適切につなぎ、文を組み立てることができる。
5	名詞修飾を適切に使って文が書ける。
6	複文で意味が分かるように文が書ける。
7	書き言葉と話し言葉の区別ができる。
8	書き言葉と話し言葉を混ぜずに、統一して書くことができる。
9	接続詞を適切に使って、論理的に文と文をつなぎ、結束性のあるパラグラフを作ることができる。
10	授業の制限時間内に、課題の条件を満たしながら書くことができる。

段階 II	
11	主体と述部の関係がわかる文が書ける。(授受使役、呼応など)
12	箇条書きと文の違いを理解し、適切に使い分けができる。
13	読み手を意識し、指示詞や必要な情報を丁寧に説明して、自分の考えをわかりやすく表現できる。
14	自分の考えに対する理由を読み手が納得するように説明できる。
15	単なる感想ではなく、なぜそう思ったかという内省を読み手がわかるように表現できる。
16	パラグラフとパラグラフが論理的につながった文章を書くことができる。
17	序論・本論・結論など、展開が明確にわかる文章を書くことができる。
18	ある情報を自分のことばで要約できる。
19	引用ルールを理解し、本文中で適切に間接引用ができる。
20	引用文献の出典を適切に示すことができる。
段階 III	
21	社会背景や研究動向に基づき、レポートの問い(リサーチ・クエスチョン)を立てることができる。
22	リサーチ・クエスチョンに対する調査(文献調査、データ分析など)の結果を一貫性ある形で説明できる。
23	情報・データをまとめて図表を作成し、その説明が文章化できる。
24	引用部分に対する自分の意見・評価を区別して書くことができる。
25	結果に対する考察を書くことができる。
26	文章を読み直して、適切に自己推敲し、自力で文章を改善できる。
27	志望する進路に対する動機について、大学生生活で行ったこと、学んだことと関連付けて文章で説明できる。
28	志望する進路に対する動機について、将来と関連付けて文章で説明できる。
29	専門分野について、その概要を他者に明快に文章で説明できる。(先行研究レビュー)
30	研究テーマをめぐり、その概要からリサーチ・クエスチョン設定までの過程を文章で説明できる。(研究計画)

3.5.4. 共有対象及び今後の展開構想

「AC Can-do リスト」の共有対象は、第一に GLC-J 教員が中心となる。まず、段階 I は「③基礎技能系 Can-do リスト」との親和性が高く、「読む」「書く」力を養うために C レベルの技能系科目で扱うべき事柄を確認し、GLC-J での教材開発に役立てることができる。段階 I と段階 II は「日本語 I・II」および「日本語特講 I・II」において「読む」「書く」指導をいかに段階的に取り込むか、GLC-J でアーティキュレーションを考慮しながら

ら、シラバスやルーブリックの洗練化に活用できるだろう。そして、段階 III は「アカデミック日本語 I・II」のシラバス改善、2023 年度新規開講予定の「アカデミック日本語 III」の開発に利用できる他、GLC-J 教員が留学生の進路指導を「日本語サポートデスク」²⁾で行う際などに指針を示すと考える。

「AC Can-do リスト」は、学部や教学センターと共有することで、留学生の学修支援効果をより高めることができる。まず、2022 年度に経営学部で新規開講される中国人留学生対象科目「アカデミックスキル」(中国語開講)の授業設計をする上で、段階 I や II の修得状況を把握し、学習項目に反映させることができると考える。また、段階 III については、学習・教育開発センター(LED)との情報共有に用いることで、LED が提供するリテラシー教育科目(「アカデミック・リーディング」「アカデミック・ライティング」など)との有機的な連携が可能になればと考えている。

注

- 1) GLC-J におけるアーティキュレーション整備については、3.4.2.を参照されたい。
- 2) 「日本語サポートデスク」とは授業外の留学生支援システムを指す。詳細は、https://www.ygu.ac.jp/glc/publication/news_letter を参照されたい。

参考文献

- 門倉正美 (2003) アカデミック・ジャパニーズとは何か 日本留学試験が日本語教育に及ぼす影響に関する調査・研究—国内外の大学入学前日本語予備教育と大学日本語教育の連携のもとに— 平成 14 年度～16 年度 科学研究費補助金基盤研究費 (A) (1) 研究成果報告書, 123-132.
- 門倉正美 (2006) <学びとコミュニケーション>の日本語力-アカデミック・ジャパニーズからの発信 アカデミック・ジャパニーズの挑戦 ひつじ書房, 3-20.
- 鈴木美加・中村彰・藤森弘子 (2010) アカデミックな日本語運用能力を高めるために—中～上級クラスの実践から見えてきたこと— 第 15 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム 2010 年 8 月 25 日 ヨーロッパ日本語教師会 発表資料 <https://eaje.eu/pdfdownload/pdfdownload.php?index=162-169&filename=koto-suzuki-nakamura-fujimori.pdf&p=bucharest> (2022 年 3 月 25 日)

文責：トンプソン美恵子